

# みつる新聞

## 《藤沢市議会議員：宮戸みつる》

〒251-0028 藤沢市本鵜沼3-9-1-101  
 TEL&FAX:0466-35-4110  
 E-mail:m.miyato@nifty.com

自由松風会所属



### 重要文化財、人形山車などへの支援、 新たな観光拠点づくりについて！

現在本市には、国、県、市の指定する重要文化財が、合わせて90件ほどあります。そしてこれら市内文化財の利活用として、各町内やお囃子保存会、氏子などの地域力を生かしたお祭りがございます。

本市では毎年市民祭りが開催されておりますが、そこに各町内や保存会の皆様も参加し少しでも盛り上げたいとありますが、問題課題も多くあるようです。例えば、山車を藤沢駅まで運搬するには、車軸の耐久性とアスファルトとの関係、人形と電線との高さの問題などは大変大きな課題との事です。本市の貴重な伝統文化を広く発進する場でもあります、是非、様々な方面から支援をお願い致します。

次に、本市指定の文化財から県指定の文化財に格上げした場合の交付金額については、本市指定の方が高い訳ではありますが、県指定となるとその分箱がつき、その結果多くの観光客に来藤してもらえ、結果として経済効果をもたらしてくれる事も考えられます。このような交付金など行政上の情報についても、各神社や保存会・氏子の方々に周知して頂くようお願い致します。また、これら文化財を支援する方法としては、金銭だけではなく、文化財の有効活用に関する情報などの積極的周知もあります。是非そういった支援もお願い致します。

次に、鵜沼皇大神宮、通称烏森神社のお祭りに登場する9基の人形山車は市内でも貴重な歴史ある人形山車で、市の重要有形民俗文化財に指定されています。また、例祭そのものが『かながわ民俗芸能50選』にあげられておりますし、皇大神宮そのものが年頭新年の藤沢七福神めぐりの、唯一の日本の神である恵比寿さんとして知られております。このような地域資源を有効活用する事は、観光拠点など新たなまちづくりとなると考えます。



これ（左写真）は9基の山車が一列に整列し境内に向かっていくところです。この配列はお宮に近い町内会からの順番で、宮之前町ー上村町ー清水町ー宿庭町ー苅田町ー大東町ー仲東町ー原町ー堀川町となっております。各町内の山車は明治中頃に制作され、代々氏子によって保存方法や仕組み・組み立て方法が受け継がれ、今日に至っております。叩いているお囃子は、しょうでん、新囃子、旧囃子と大きく分けて3種あり、町内によっては鎌倉囃子も叩いております。お囃子には字と玉がありそれを笛の音色を聞き分けながら叩きます。叩き方は多少町内によつての違いはありますが、さほど変わりはありません。

先頭を走る宮前町内の山車の人形は那須与一宗高で、今から825年の源平屋島の戦いにて扇の的を射った人物であります。与一の重臣であった浅間氏の末裔の方に話を伺ったところ、弓一張と矢を戦いに出向く際、必勝祈願の意味で奉納したと語り継がれているそうです。この事は皇国地誌にも載っております。与一の重臣浅間氏は、神官であったそうで、当時皇大神宮には神官が不在であったため、浅間氏が数百年にわたり神職を勤めていたと



言うことです。(現在は、関根正統宮司です)

山車と山車が向かい合いお囃子を供宴すると言うのもこの例大祭の見所です(左写真)。山車の左に大きなのぼりが上げられておりますが、これはのぼり4町内と言い、お宮に近い、宮の前、上村、清水、宿庭の4町内によって例大祭が始まる2日前の8月15日から17日までの間、毎日上げ下げを行います。こののぼりは非常に長くて重く、数十kgあり、毎日の上げ下げに労力を要します。のぼりの先端には榊がつけられ天上界より降臨される神に対する目印であるそうで、神のご降臨に逆らう者はいないという意思表示でもあるそうです。

神社から出口に向かって左側に整列している各町内の山車の人形は、左から、楠木正成、浦島太郎、日本武尊、仁徳天皇であります(下写真)。全ての人形山車が境内に入ると更に大きな供宴が始まり、例大祭のクライマックスです。その頃、拝殿で行われているのが日常生活の3つの神のご加護を頂く、市無形文化財指定の湯華神楽、別名湯立神楽の奉納で、奉納が終了するまでお囃子が続けられ、終了と同時に終了致します。

さてこの人形山車ですが、昭和34年、マイアミビーチ市との姉妹都市締結の際には、9基の人形山車が祝福の為、江ノ島まで出向いたそうです。4輪固定の山車には自動車と異なりサスペンションはありませんが、当時は道路の殆どがじゃり道であった為、それがクッションとなり、長距離巡行ができたそうです。この山車ですが、一本の柱を台輪に立て、高欄や人形などが刺さるように固定する構造になっております。人形部分まで含めると高さはなんと約8mもあり、山車が走行するたびにゆさゆさと揺れ、各高欄と人形が別の方向に揺れているように見えることもあり、人形山車の特徴であり、見所の一つでもあります。

このように壮大なお祭りであるのは、本市内の神社仏閣で最も古い、相模國土甘郷総社であった所以と感じ取れます。土甘郷とは諸説ありますが、歴史は古く奈良時代の西暦735年、相模国司が中央政府に報告した交易帳の中に鵜沼付近を表す土甘郷が見られます。

明治5年に開校した旧鵜沼学舎、現鵜沼小学校の校歌には『小鳥が歌う海がなる砥上が原(土甘郷)の春よ秋』とあり、砥上が原が歌われております。土甘郷と砥上が原とは同じであると言う説が一般的であります。砥上が原とは、引地川と境川に挟まれた地域を指すようで、昔は2河川が自由気ままに蛇行する川であった為、三日月湖など湿地帯が形成、その結果、鵜(くぐい)、現代名の白鳥が飛来するあしが多く茂る湿原でありました。そして鵜が多く飛来する沼で、鵜沼になりました。

さて、本市総合計画の鵜沼の地域まちづくり目標に、『鵜沼の歴史と文化、魅力を市民団体などと連携して広く発信するまちを目指します。』と挙げられておりますが、氏子さんからも同様なご意見を頂いております。昨今



の近代化や世代交代により、人々のお祭りや人形山車への意識が希薄化していると言う事です。危機感を感じた氏子の中には、何とか後世に残すべく『伝統文化の保存・継承と観光拠点の形成5カ年計画』なるものを考えておられます。

例えば、人形山車もしくは人形の常時展示やTVモニターによる生い立ち等解説説明や、祭礼時の模様等の映像案内、観光バス駐車スペース、ご当地物産品、歴史物産品・新ブランドの開発、各メディアとの連携広報などがあります。

これから、地域・市民・行政一体で行う観光拠点構築型祭りについて、ハード面・ソフト面等、様々な提案がある事と思えます。是非耳を傾け、強力な支援を行い、地域活性化に繋げて頂きたく強く要望すると共に、市内所在の各文化財への更なる支援を要望し、質問を終わります。